

2019/20 年度 第 4 回理事会 議事録

- 日時： 2020 年 9 月 19 日土曜日 13 時 00 分－15 時 30 分
- 会場： Zoom によるオンライン会議
- 出席者： 山野博哉，藤田和彦，梅澤有，中野義勝，栗原晴子（以上理事），鹿熊信一郎，野中正法（以上監事），久保田賢（事務局）
- 欠席者： 井龍康文

議題（案）

報告事項

(1) 業務報告

1. 学会誌（資料 1）

資料 1 を用いて第 3 回理事会以降の内容を中心に実施事業が報告された。

2. 広報・社会連携（資料 2）

資料 2 を用いて第 3 回理事会以降の内容を中心に実施事業が報告された。

3. 学会戦略・国際連携（資料 3）

資料 3 を用いて第 3 回理事会以降の内容を中心に実施事業が報告された（会長が報告）。

4. サンゴ礁保全・調査安全（資料 4）

資料 4 を用いて第 3 回理事会以降の内容を中心に実施事業が報告された。調査安全委員会による事例収集が困難である件に関して、潜水調査を実施している大学等の機関において、十分な人的配置がなされていなかったり、組織で内部規則がなかったりする例が多いという情報を得ていることから、「体制や規則が整備されていない」という事例の収集が必要であるとの見解が示された。

5. 庶務・会計（資料 5）

資料5を用いて第3回理事会以降の内容を中心に実施事業が報告された（会費
収納システムの変更等については事務局が報告）。

(2) その他

新型コロナウイルス感染防止等の観点から、委員会活動が滞っているケースがあるため、理事会としてオンライン開催等を促す必要性があるとの意見が出された。

審議事項

(1) 業務担当別審議事項

1. 学会誌

なし

2. 広報・社会連携（資料6）

「保全・教育普及奨励賞」の創設について提案された。現「サンゴ礁保全奨励賞」の細則を変更し、教育普及活動も対象として加える上で議論された、対象者の学会員への限定削除、選考委員の申し合わせ事項への任期の明記や募集要項の推薦方法の変更について説明された。複数の理事が所掌する委員会が合同で運用することになることから、本賞では応募先の電子メールアドレスを新たに設定し、転送先メールアドレスを保全委員会委員長と教育・普及啓発委員会委員長とすることとなった。提出書類はすべて電子ファイルに限定すること、公募書類の発信者は、サンゴ礁保全学術委員長および教育・普及啓発委員長の連名とすることとなった。

2021年度開催に延期された14thJCRSでは、現地開催とオンラインのハイブリッド開催が検討されているが、現地への出席者がJCRS会員を含め少数になること、また、JCRSも学生会員年会費免除などの学会内事業に予算を充てる必要性があることから、JCRSブースの出展や広報グッズの作成は、中止とする方向について提案された。議論の上、Galaxea等の広報にとって良い機会でもあるので、もしオ

ンラインでの広報宣伝枠が用意されるなら、内容と費用対効果を吟味し、10万円程度の支出は検討したほうが良い、という結論となった。

3. 学会戦略・国際連携

なし

4. サンゴ礁保全・調査安全

なし

5. 庶務・会計（資料7）

賞委員会規程および賞細則の変更について提案された。資料6で提案された「保全・教育普及奨励賞」への変更や現規程で紛らわしい表現となっていた「小委員会」を「選考委員会」に修正すること、一部の賞選考にかかわる委員数の変更や附則への改正日の記入などについて説明された。学術大会口頭・ポスター発表賞に関する議論により、対象者の年齢を下げ、学生や調査研究の初心者等に限るよう修正することとなった。また、様々な賞の受賞者が賞の意味づけや授賞理由を十分に理解していない例があるということから、各賞細則の第1条の趣旨について見直しを図ることとなった。修正案について2020/21年度第1回理事会で確定し、代議員総会で承認を得るというスケジュールで進めることが確認された。

(2) 2020/21年度事業計画について（資料8）

一部の内容しか提出されていないことから9月30日頃までに各理事より提出され、メールで調整を図ることとなった。

(3) 2020/21年度予算について（資料9）

一部の内容しか提出されていないことから9月30日頃までに各理事より提出され、メールで調整を図ることとなった。